

裾野市総合計画等評価委員会 後期基本計画策定に向けた意見等一覧表

以下のご意見については、後期基本計画策定時の参考とさせていただきます。

※庁内組織である総合計画策定委員会や策定作業部会でいただいたご意見の内容を考慮・検討した上で、素案を作成し、総合計画策定審議会にて審議をお願いする予定です。

No	該当箇所	意見等	委員
1	大綱 1	都市は、「住む」「働く」「楽しむ(余暇)」「往来する(交通)」の4つの機能が1933年の『アテネ憲章』に盛り込まれており、その第一要素である「住むこと」を中心とした配置にすべきことが提案されている中、指標の「地域は住みやすい」と答える市民の割合が、アフターコロナの3年間で15.4%（実質、2021年度から3/4に減）も低下したことをどのように評価するか、各施策の柱の成果指標が基本目標の達成要因とリンクしているか、そもそも「ひとりひとりが役割を持ち輝けるまち」の実績指標として、「地域は住みやすい」と考える市民の割合の実績指標に妥当性があるのか、『役割を持つこと』が『住みやすさ』の必要・十分条件となっているのか、基本的に実績指標として評価し得る目標設定を示すことは極めて難しいが、次期総合計画策定時には、基本目標の実績評価について、今一度、『ひとりひとりが…輝けるまち』とは何かを具体的に提示していただきたい。	藤井 敬宏
2	大綱 1	「ひとりひとりが役割を持ち輝けるまち」の基本目標が妥当性の問題を孕んでいる。子育て支援への満足度より、女性、定年後、障害者の就業率の方が指標として妥当である。すべての項目に対して「満足度」といった主観的指標ではなく、人口動態のように実績値として検討すべきである。	山本 睦
3	大綱 1	基本目標の実績が基準値を大きく下回ったのが気になる。アンケートの回収率の違い等も影響が考えられるので、アンケートの趣旨の伝え方や回収方法を改善して、回収率を向上しより精度の高い評価が必要と思われる。	渡邊 昌志
4	大綱 1	教師に話を聞くと小中学生の子ども達より、親世代に問題があると思う。そのために教師が病気になるったり、やめてしまったり…。親世代に対して言える方法はないのだろうか。	杉山 千恵
5	大綱 1	市民に満足を感じてもらい、住みやすさを感じているためには、施策の柱から市民の意見を聞き、活動していく必要があるのではないか。	市川 加代子
6	大綱 1	今後は共働きを前提とした保育、学童の検討が税収増加や子育て世帯の定着、満足度につながると思う。	飯塚 尚司
7	大綱 1	「地域は住みやすい」と答える市民の割合を増加させるために、まずは市民が何を望んでいるのか、何が必要だと考えるのかを議論する場を提供する。（小中高生単位、若手世代単位、中間層単位、高齢者単位）	長谷川 好一
8	施策の柱 1-1	こども家庭庁から「量より質」の保障が提示され、根本的に子育て支援の方向性が変わっている。	山本 睦
9	施策の柱 1-1	待機児童数ではなく、質を表す指標を採用すべき。	山本 睦
10	施策の柱 1-1	安心して子どもを産み育てられる環境とは何かを引き続き追及していただきたい。	渡邊 昌志
11	施策の柱 1-1	子どものベビーカーを押している若い家族を見ることが少ない。歩道が狭くて平らじゃないので歩きにくい。	杉山 千恵
12	施策の柱 1-1	本人及び事業者・周りの方々にも受診を促すキャンペーンを行うなど対応を検討する。	市川 加代子
13	施策の柱 1-1	課題は長期の保育、預かり保育、夏休み学童などの充実。共働きをサポートできると、税収に寄与するのでは。	飯塚 尚司
14	施策の柱 1-2	子どもの地域連携の実態がよくわからないのですが、地域連携に関する発表会等他市と共同開催でも良いので、実施されると子どもの事業展開力等養成しやすくなるのではないかと。夢や目標と漠然としたものではなく、身近な目標を設定する支援が必要ではないかと。	山本 睦
15	施策の柱 1-2	将来の夢や目標ではなく、3年以内あるいは1年以内に達成したい目標があるかの方が、大事。これを持ってないと、社会人基礎力は涵養されない。	山本 睦
16	施策の柱 1-2	小学生から中学生（になる）と環境や考え方に大きな変化が起きることが考えられる。可能な限り児童が興味を持っている又は持てる様な機会を増やす工夫が望まれる。	橋本 勝彦
17	施策の柱 1-2	富一小の学校運営協議会の委員をやらせてもらっているが、地域の人たちとの連携が取れていて、安心して見ていられる。	杉山 千恵

No	該当箇所	意見等	委員
18	施策の柱 1-2	生涯学習のライフステージは、①子ども・青少年の学び、②成人の学び、③高齢者の学び、に分けられ、さらに支援する取り組みとして、①人材育成、②家庭教育、③教育コミュニティ活動の推進、④多様な主体との連携・協働、が関与していると思います。成果指標では、①の評価はできるが、①～③のどのライフステージの呼応した評価を行っているのかが不明であると共に、②～④については現状では評価できない状況にある。実施する事業や地域、連携する各主体の対応レベルにもよると思うが、今後の評価指標の設定においては、①～③、①～④の構成要素の中で、裾野市はどれを優先指標として考えているか等を示した上で、市民が生涯に渡って学ぶ環境を整備していただきたい。	藤井 敬宏
19	施策の柱 1-3	生涯活動の提供するプログラムを再編する必要がある。資格取得や定年後のリスキングを助ける方向で、各専門職の人材不足を解消できるような働きかけが必要。	山本 睦
20	施策の柱 1-3	中学の部活の指導者がいなくて、子ども達の情操教育に影響を落としている。民間の力や個人の指導者を育ててほしい。制度の縛りに捉えられていて活用できていない。	杉山 千恵
21	施策の柱 1-3	コロナによる人との接触方法が変わった今、これまでのやり方を変えないと生涯活動の認識は上がらない。	飯塚 尚司
22	施策の柱 1-4	この項目も主観的指標を採用している。それより運動習慣や健診受診率、週単位の通院回数等客観的指標が必要。	山本 睦
23	施策の柱 1-4	推進策がニーズと合致しているかは、再考が必要では？	山本 睦
24	施策の柱 1-4	裾野市の高齢者は仲間より個人一人で行えることを探して参加している。地域のサロンより運動を選ぶ人が多い。きめ細やかな情報があれば。	杉山 千恵
25	施策の柱 1-4	健康づくりの支援の満足では目標の25%を超えているがアンケート以外で分かりやすく表すことのできるものはないのか。	市川 加代子
26	施策の柱 1-4	健康の定義づけが難しいため自己評価は参考値として良いと思う。	飯塚 尚司
27	施策の柱 1-4	1-4と重複部分はどちらかにしてはどうか。それ以外は、数値として妥当な指標かと思う。	山本 睦
28	施策の柱 1-5	各施設ともより魅力的なメニューを提供し続けてほしい。	渡邊 昌志
29	施策の柱 1-5	家の近所も一人で歩いている人がいるがこの人達が認知症になったら…地域のお仲間と一緒に何かやる理想ですが。	杉山 千恵
30	施策の柱 1-5	裾野市運動公園の活用（プロ野球、プロサッカー）、東名カントリー、裾野カンツリーで行われるプロゴルフツアーへの関与の強化。	長谷川 好一
31	施策の柱 1-6	毎年、評価対象者が異なることの影響を考慮しても、これほどの減少は考えにくく、是非、地域性、年代、職業等の基本指標とのクロス分析を行い、どの分野に注力して今後の理解度促進を図るべきなのかを検討していただきたい。	藤井 敬宏
32	施策の柱 1-6	実態としての数値（常勤・非常勤の性別ごとの比率、市内の企業の新規採用と管理職における年齢層別性別データ、各種プロジェクト委員会の性別比率など）で示してほしい。	山本 睦
33	施策の柱 1-6	裾野市は基本的に保守的。女性でも役員ができるのにそれを阻む保守的な方が多くて、その壁が障害となっている。	杉山 千恵
34	施策の柱 1-6	性別にかかわらず個性と能力を発揮できる機会が確保されていると思う市民の割合は目標が30%に対して2020年12.3%、2021年27.6%、2022年29.7%。2023年13.8%と変動が大きい。もっと分かりやすく具体的な数値で調査してはどうか。	市川 加代子
35	施策の柱 1-6	男女共同参画だけでなくLGBTQに対する理解活動も入れていくとよい。	飯塚 尚司

No	該当箇所	意見等	委員
36	大綱2	産業の評価としては、成果指標においては企業誘致や新たな産業基盤づくり、商工業の活性化等の指標による評価がなされているものの、基本目標における「一人当たり市民所得額」の推移が、どのように「地域資源を活用した魅力あふれるまち」に起因しているのか、風が吹けば桶屋が儲かるの様な観点で、市民所得が上がると購買意欲が増加し、地産地消の商工農の地域資源を求めようになり、相乗効果として循環経済が魅力を創出するというようなことを意図したものなのでしょうか？市民所得額が増加していることは、市民の豊かさを評価する指標であることは間違いないが、『地域資源を活用した魅力』にどう繋がっているのか、そのロジックが判然としておらず、妥当な評価となるコメントがし難い状況であり、次期の総合計画の策定段階でご検討をお願いしたい。	藤井 敬宏
37	大綱2	産業については物作りを。観光については独自性を。それぞれ最大限に強化すべきである。	橋本 勝彦
38	大綱2	○基本目標（1人当たり市民所得額）は、策定時（2019年）と比較し、2023年は1.5%の増加となっている。今後の日本全体の動きと見比べて評価すべきと考える。 ○基本目標（観光交流客数）は策定年（2019年）2,189千人であり、2025年の目標は増加であるが2023年は63.3%、2021年、2022年とも下回っている。容易にコロナ禍の影響は想像がつくが、これからの戦略はこれを踏まえて考えていかなければならない。 目標が達成されるよう、疑問対し調査し回答を示し、より効果を発揮する手法を検討していく。	市川 加代子
39	大綱2	森林は間伐だけでなくCNの取組みをしかけることで誘致と合わせて効果を出し、獲得の増加につながる。	飯塚 尚司
40	大綱2	「1人当たり市民所得額」は少しずつ増加しているが、物価変動（消費者物価指数）も増加しているため単純に良し悪しを判断することが難しい。	吉田 俊朗
41	大綱2	観光交流数は新型コロナの影響があり2019年と比較して2021年には半減したが、徐々に増加している。後期基本計画を策定する際は、基準値の見直しを必要とする。	吉田 俊朗
42	大綱2	道の駅の推進の優先順位をあげ、早期の完成を目指す。（裾野市内の滞在時間を増加させる）	長谷川 好一
43	施策の柱 2-1	事業用地の確保を強力に進めるべき。	橋本 勝彦
44	施策の柱 2-1	改善点等：事業用地の確保	渡邊 昌志
45	施策の柱 2-1	土地利用の調整がなかなか難しいと思われるが、努力は続けてほしい。	杉山 千恵
46	施策の柱 2-1	企業を連れてきてもそこで働く人達が市内の住民&よそから来ても住む所が市外では人口子どもも増えない。	杉山 千恵
47	施策の柱 2-1	インターから近い用地の確保による企業誘致の場所の創出	飯塚 尚司
48	施策の柱 2-1	起業を誘致するためにはまず事業用地を創出する必要あり。	長谷川 好一
49	施策の柱 2-1	裾野市内には調整区域が多い。早期に改善する必要あり。	長谷川 好一
50	施策の柱 2-2	企業誘致にも繋がるが、裾野という立地条件を生かして食品関連に特化した工場誘致も検討すべきである。	橋本 勝彦
51	施策の柱 2-2	創業件数が少ないが、創業を考えている人が裾野市を選ぶ仕掛けが必要ではないだろうか。具体的には、創業支援に加え移住者支援に力を入れるとか。	渡邊 昌志
52	施策の柱 2-2	改善点等：支援の抱き合わせ、組み合わせ	渡邊 昌志
53	施策の柱 2-2	商工会との密な連携を期待	飯塚 尚司
54	施策の柱 2-2	サポートには即効性のある策や長期的な策があると考えため、売上増減が一時的なものか継続的なものかをみていくことが重要と考える。	吉田 俊朗
55	施策の柱 2-2	サポートを受けた事業者の売上増減割合の平均値に関連し、サポートを受けた事業者数も成果指標に加えるとよいのではないかと。1社が30%増加するのと、10社が30%増加するのでは、所得額に与える効果が異なり、また売上が増加するようであれば、より多くの事業者をサポートできるとよい。	吉田 俊朗

No	該当箇所	意見等	委員
56	施策の柱 2-3	コロナも収束しつつあるので、以前やったプレミアム商品券などやるといいと思う。	土屋 祐一
57	施策の柱 2-3	補助制度も大事なことだが、一過性の支援になってしまうことが多い。裾野市内外の人たちが裾野市内事業者で購買したくなるような仕掛けを考えられないだろうか。	渡邊 昌志
58	施策の柱 2-3	改善点等：来裾の必然性を創出	渡邊 昌志
59	施策の柱 2-3	「キャッシュレス対応の店舗 増」と「キャッシュレス利用額（者） 増」の2つを施策とした方がよいのではないかと。「キャッシュレス対応の店舗 増 → キャッシュレス利用額（者） 増 → キャッシュレス対応の店舗 増 → …」の好循環につながるようなそれぞれの施策が必要と考える。	吉田 俊朗
60	施策の柱 2-4	そばのPRは早急に取り組んでもらいたい。本当に特産品にするのであれば、もっとそばに集中してもよいのではないかと。	渡邊 昌志
61	施策の柱 2-4	改善点等：就農支援、農業指導を行い、経た者への無料農地貸出（3～5年で再審査）のしくみづくり。	飯塚 尚司
62	施策の柱 2-4	改善点等：企業、所有者を結ぶCNの取組み、カーボンクレジットの導入をあっせん	飯塚 尚司
63	施策の柱 2-5	2-2 食品関連の工場誘致と実際に製品を道の駅などで購入（して）食べられる施設を検討してほしい。	橋本 勝彦
64	施策の柱 2-5	2023年に1,159千人で2025年目標が倍の2,200千人はどうかと思う。	土屋 祐一
65	施策の柱 2-5	裾野市の枠を越えて、御殿場アウトレットやスピードウェイなどのお客さんを、裾野で宿泊・飲食してもらえたら増えると思う。	土屋 祐一
66	施策の柱 2-5	裾野市の魅力的なスポットの整備が足りていないように思われる。景勝地をきれいに整備し、もっと積極的に誘客できないだろうか。	渡邊 昌志
67	施策の柱 2-5	ウーブンシティは本当に裾野に恵みをもたらしてくれるのか？もっとトヨタさんにくいこまない置いてほしい。	杉山 千恵
68	施策の柱 2-5	改善点等：SNSに上げられるイベントや支援の実施	飯塚 尚司
69	施策の柱 2-5	改善点等：宿泊場所の確保	飯塚 尚司
70	施策の柱 2-5	道の駅の推進加速。（完成時期を明確にする必要あり）	長谷川 好一
71	施策の柱 2-6	今後、国体の開催方法も大きく変化すると聞いている。御殿場市の乗馬競技場の様な恒久施設の設置を検討すべきである。	橋本 勝彦
72	施策の柱 2-6	改善点等：宿泊施設を含む施設の受入れ体制のさらなる整備	渡邊 昌志
73	施策の柱 2-6	ヘルシーパークに行ってみると全部が（老朽化している）	杉山 千恵

No	該当箇所	意見等	委員
74	大綱3	国のガイドラインに基づき、総合計画の改定時に防災計画を組み込むようになってきている。立地適正化計画においても都市機能誘導区域や居住誘導区域の設定エリアの見直しが行われる中、裾野市では、40%以上の方が市街化調整区域に居住されており、集落拠点に相当するエリア設定を行った上での集約化を図る位置づけを構築しようとしている。そこで、人的被害の総定数の見直しを次期総合計画の策定時には、立地適正計画や他の国土強靱化計画、等を考慮して行っていただきたい。その上で、今回の計画で位置付けられている2025年目標「最小」に向けて、どのように計画論として近づけていくのか、極めて難しいことは承知しているが、総合計画としての評価は、フォアキャストの視点と、将来目標を具現化していくためのバックキャストの視点からの評価を事務局としては常に意識しておかなければいけないので、内部の検討案件としての位置づけでも構わないので、意識して取り組んでいただきたい。また、「住み続けたい」と答える市民の割合は、本大綱の直接的な目標指標であり、微減している。これは、他自治体でも同様の課題を抱えているのが現情であり、地域愛着を如何に育むか、一体感が得られるコミュニティをどのように形成・継続するのか、等の観点から市民に寄り添った施策が展開できているかの視点からの評価が必要である。	藤井 敬宏
75	大綱3	基本目標が自然災害と漠然とした主観的指標で示されている。犯罪に関して、防止策とその効果が見られる指標が必要。「住み続けたい」というのはその理由が問題であるので、移住者の定住率や市内の職場への転職による就業率等指標に工夫がほしい。	山本 陸
76	大綱3	各地における激甚災害の発生状況に鑑み裾野市においても防災対策は重要であると考えている。特に発災後の対処と対応は重要である。自主防災組織のより一層の充実を計るべきである。	橋本 勝彦
77	大綱3	裾野の警察署は長泉と裾野を管理しているが、裾野の職員は警察に対する働きかけがもう一つ足りないような…長泉とはいい関係。予算がないと防犯にお金がかかけられないようだが、それでは裾野に住みたいという人は増えない。災害に対する備えも、もう一歩ふみこんでほしい。	杉山 千恵
78	大綱3	住むための土地がないのが要因で「住み続けたい」が低いならば（他の取組みはよいため）裾野駅周辺で中層住宅を先導するのも一手と思われる。	飯塚 尚司
79	大綱3	「住み続けたい」と答える市民の割合を増加させるために、市民が何を望んでいるのか、何が必要だと考えるのかを議論する場を提案する。（大綱1にも記載済）	長谷川 好一
80	施策の柱 3-1	私に関わるカーボンニュートラルシティ（ゼロカーボンシティ）の宣言自治体では、市内の総排出量の削減目標に対して、エネルギー転換部門、産業部門、運輸部門、家庭部門における各種推計を行った上で、運輸部門における総排出量の削減を市民レベルで加速させる必要性が高いという判断で、購入費用の補助に加えて、家庭用EV車充電インフラ導入補助金を自治体レベルでも展開（計画含む）している。	藤井 敬宏
81	施策の柱 3-1	国の類似補助金があることのみで今後も目標達成に寄与すると判断されたのか？あるいは、進捗評価の中で示されている「今後は地球温暖化の抑制につながる行動変容を促す取組みを行う」は、モビリティ転換として、自転車を活用した移動環境の整備を行うとか、脆弱性のあるバス等の公共交通の利用促進を展開するつもりなのか、または、「次世代自動車の普及率」の成果指標そのものを今後削除するお考えなのか、事務局としての思いが明確に伝わらずに憶測としてのコメントしか記せないのので、内容表記を再検討する必要があると思う。	藤井 敬宏
82	施策の柱 3-1	次世代自動車はインフラ整備が鍵。周知も必要。	飯塚 尚司
83	施策の柱 3-1	改善点等：市内に充電スタンドの設置と周知。一時的に無料化（観光イベントとセット）	飯塚 尚司
84	施策の柱 3-2	各地区の防災倉庫に備蓄している水、その他を古くなったら入れ替えて、活用する企業があるという。利用してほしい。	杉山 千恵
85	施策の柱 3-2	意識の改善方法を考える必要がある。	市川 加代子
86	施策の柱 3-2	改善点等：中学生を中心とした防災士や防災計画の策定	飯塚 尚司
87	施策の柱 3-2	改善点等：河川への流入量の見直し	飯塚 尚司

No	該当箇所	意見等	委員
88	施策の柱 3-3	高齢化が進む中、地域の実情に合った自主運行による交通手段確保の行政による支援を検討すべきである。	橋本 勝彦
89	施策の柱 3-3	市内での犯罪件数増加傾向には不安を感じる。犯罪及び事故を減らしていくために、さらなる防犯体制の強化を望む。	渡邊 昌志
90	施策の柱 3-3	毎年、新しい犯罪が発生し、高齢者が狙われている。各地区のサロンで防犯に関する講座等やってほしい。警察署との連携がとれていない。とる気があるのか。	杉山 千恵
91	施策の柱 3-3	改善点等：通学路の時間帯通行禁止の拡大	飯塚 尚司
92	施策の柱 3-3	改善点等：側溝のふた設置など車、人ともに享受できる物理対策	飯塚 尚司
93	施策の柱 3-4	須山診療所の閉院には危機感を覚える。市内医療施設の数が増えているような気がするが、救急に対応する施設に不安がある。日赤をもっと充実できないものか。	渡邊 昌志
94	施策の柱 3-4	裾野の診療所での訪問診療をにかけている所8つほどあるらしいが連絡してもなかなか来てくれなそう…。	杉山 千恵
95	施策の柱 3-5	さらなる充実を期待する。	渡邊 昌志
96	施策の柱 3-5	昔ながらのご近所付き合いを続けることで、認知症になっても自宅で暮らせる。そのために必要なホームヘルパーさんを増やす施策があれば、最後まで…。	杉山 千恵
97	施策の柱 3-5	障がい者の雇用率は法定雇用率が目標となっているが具体的な数値が示されないと評価しにくい。数値を示すことはできないか。	市川 加代子
98	大綱4	人口減に関して、世代ごとの転出件数から分析が必要かと思う。生活満足度は、市の政策よりもインフレの影響が強いと思うので、消費者物価指数等他の変数と重ね合わせての分析をしないと、市の施策でカバーできない範囲の内容が反映されてしまい、実際評価として機能しない。	山本 陸
99	大綱4	交通問題については、従前からの事業者主体の施策を根本から見直していただきたい。	橋本 勝彦
100	大綱4	人口減少が続いていること、生活満足度の低下傾向に不安を感じる。全国的に人口減少があることは事実ではあるが、基準値を上回る人数が減少が続いているのには歯止めをかけなくてはならない。生活満足度と人口の推移は関連性が大いにあるので今後のまちづくりで上向きに変えなくてはならない。	渡邊 昌志
101	施策の柱 4-1	ウーブンシティとの連携を前提とした取組のみでなく、実証実験数の多さを活かした市独自の社会実装を考えるとよい。	飯塚 尚司
102	施策の柱 4-1	規制の特例措置は提出より提案を。	飯塚 尚司
103	施策の柱 4-1	市独自のスタートアップが試せる研究長屋の提案、実施。	飯塚 尚司
104	施策の柱 4-2	JR全駅の利用客数のCOVID-19前と2023年の比較では88.7%まで回復しているが、裾野駅・岩波駅利用者数は、76.6%と約12%も下回っている。また、直近の2021年との比較では、JR全駅で19.4%増加しているものの裾野駅・岩波駅では0.8%の増加と低迷している。JRの今後の利用者数の増加には、モビリティのシームレス化を図るモーダルミックスの運用が必要であり、そのためにも裾野駅では区画整理事業を活かした拠点利用、岩波駅ではウーブンシティやYシティと連携したMaaSの展開等、次世代に向けた拠点整備の機能強化が必要である。工事中の岩波駅前周辺整備計画による各種民間活力を活かしたモビリティハブセンター等の創造型の事業展開を進めることが重要であり、駅からのラストワンマイル等の自家用車からのモビリティ転換を含めた総合的な運用策を含めて検討していただきたい。	藤井 敬宏
105	施策の柱 4-2	どこかの市町では、使わなくなった施設を50億円ほどお金をかけて、親子や若い人たちがつどえる図書館とは遊び場をつくって、人口も増えていると聞く。裾野では無理なのか。	杉山 千恵
106	施策の柱 4-2	裾野駅前があんなにみずばらしいと誰も来ない。他市町に恥ずかしい。	杉山 千恵
107	施策の柱 4-2	裾野駅前の充実。相応の利用者数はいるため、岩波駅を含め、駅前開発の推進加速。	長谷川 好一

No	該当箇所	意見等	委員
108	施策の柱 4-3	立地適正化計画の推進による各誘導地域への集約と共に、あるいは市街化区域内の集約拠点周辺地域において、どのような都市施設として位置付けて良好な環境整備を図ろうとしているのか、次期の総合計画策定時にはその検討内容が組み込めるか否か、ご検討いただきたい。各種ハザードマップの地理的条件による制約も大きいと思うが、将来的な目標をどう位置付けるかが計画論としては重要と考える。	藤井 敬宏
109	施策の柱 4-3	空き家対策は犯罪防止とも関連があり、すでに実施している市町が多い。住宅・土地統計調査が何年ごとに行われているのかわからないが、把握され次第、どういう対策を取るのか明示してほしい。	山本 睦
110	施策の柱 4-3	都市公園の整備も市民が使っている公園がどの程度あるのかも把握しなくてはいけない。	渡邊 昌志
111	施策の柱 4-3	数値だけではなく、内容も評価する必要がある。	渡邊 昌志
112	施策の柱 4-3	空家に対しては独自の課税ができるかも一考。（国や県などと連携要）その上で居住地に誘導を図るのもよい。	飯塚 尚司
113	施策の柱 4-3	借景として景観を守るところは電線地中化するのも一手。駅周辺も同様。	飯塚 尚司
114	施策の柱 4-4	2024年問題と称する「ドライバーの時間外労働の上限が年間960時間に法的に制限されることで起きる様々な課題」により、2023年より減便や路線の廃止が全国的に展開されてきている状況化において、「バス路線や便数」の満足度の達成指標が『誰もが移動しやすい…』を評価するに妥当か否か、再検討すべき時期に来ていると思う。 特に、裾野市では、バス利用者数自体が減少し、自主運行バスが廃止される状況に直面した上で、国の地域旅客運送サービス継続事業を最終手段として活用することで市内循環線を運用している状況下である。『誰もが』という達成指標において、ナショナルミニマムとしての移動を確保していく考え方に近づけるように計画を策定していくこと自体は自治体の方向性として評価できるが、バス・タクシー券の利用改善を図ることで移動しやすい交通環境の確保を図る方向性を示すのであれば、その内容自体の実績が達成指標として位置付けられてくべきと考える。しかし、金額的（私が関っている自治体の概ね1/10程度の額）に、『誰もが移動しやすい交通環境の整備』と言い切れるほどの運用策とは言い難いので、次期の総合計画の策定時に向けた指標の検討が必要である。	藤井 敬宏
115	施策の柱 4-4	地域の実情に合わせた環境整備が必要。	橋本 勝彦
116	施策の柱 4-5	用地交渉を頑張ってください。	渡邊 昌志
117	施策の柱 4-6	大切なインフラなので耐震管への布設替えをお願いします。	渡邊 昌志
118	施策の柱 4-7	決まっていることとはいえ、裾野市における下水道整備にはずっと疑問がある。経費面で本当に見合うのだろうか。	渡邊 昌志
119	大綱5	『本市の魅力を市内外に発信するシティプロモーションを展開するとともに、裾野らしいライフ下記の点が、どのように展開されているのかが、今回の点検評価では十分に把握できなかった。 ① 裾野らしいライフスタイルの提案とは何？ ⇒ 1-6の多様なライフスタイルの選択のことであれば、裾野らしさとは何か？ ⇒ 2-4の新たな担い手とともに裾野らしさがある農林業のことであれば、この裾野らしさとは何か？ 2-6の市民がアスリートと交流し、スポーツに親しむ機会が増えることか？ 等々、時代のニーズと相まって、裾野らしいまちづくりで移住・定住を図りたいという思いは理解できるが、成果指標との関係で総合的な評価の判断が行えなかった。 ② 定住は、地域に対する市民の誇りや愛着度を高める傾向が認知されているが、移住の場合、単なる「Iターン型」や「Jターン型」の移住では主観的ウェルビーイングを高めることが中々難しいとされ、近年では、「配偶者地縁型」移住による配偶者が持つ人間関係と自然資源へのアクセスがこの主観的ウェルビーイングを高める結果として、地域愛着に繋がる傾向があると報告されている。 ⇒ 裾野市が目指す移住とは、どのような移住者を対象として、また、その移住者に合う支援体制を組んでいるのかが十分に理解できなかった。	藤井 敬宏

No	該当箇所	意見等	委員
120	大綱5	より一層の助成、補助充実を望みます。	橋本 勝彦
121	施策の柱 5-1	(私見ですが)千福が丘は犯罪も起きて、大変なことになっています。市の適切な介入をお願いしたいです。高齢化が進んだ地域では自治が正当な施策ではないかもしれません。	山本 睦
122	施策の柱 5-1	各地の現状を見ると、区長選出に苦勞している。やれない理由をあげて、そこをフォローすればだれでもできると思う。やってみると、ほとんどの人がやって良かったと言っている。各班に新しい若い家族と高齢者だけの家族をつなぐアイデアが必要。	杉山 千恵
123	施策の柱 5-1	自治会継続・存続を進めるために、位置づけや、自治会が市と市民をつなぐ役割について周知を行うべき。	飯塚 尚司
124	施策の柱 5-2	記事掲載の内容が、不適切保育絡みなどネガティブな内容も多かったはず。シティプロモーションの指標として妥当か要検討。	山本 睦
125	施策の柱 5-3	オープンデータについても、標準セットの公開ができたことは達成指標として妥当であると思うが、市民が、どの程度利用しているのか、その活用状況を指標化するなど、プラットフォームができたことを活かした評価方式を次期の総合計画の策定においてご検討いただきたい。	藤井 敬宏
126	施策の柱 5-3	個人的には、印鑑証明が役所ではマイナンバーカードでとれないなど不備を感じる。	渡邊 昌志
127	施策の柱 5-3	マイナンバーカードは本当に必要なのか。そうだとしたら、なぜ普及率が低いのか。	杉山 千恵
128	施策の柱 5-3	導入中のシステムについては、導入後の利用状況も評価するとよい。	吉田 俊朗
129	施策の柱 5-4	小中学校の再編計画に期待したいが、単なる効率化ではなく、利用者の立場にたった計画であることを願う。	渡邊 昌志
130	施策の柱 5-4	改善点等：スクールバスの運用の検討等	渡邊 昌志
131	施策の柱 5-5	滞納を回収することも大事だが、ふるさと納税ですべての市立園を統合して、新しい建物にした近隣市町もある。もう少し工夫が必要ではないか。	山本 睦
132	施策の柱 5-5	税金を払えるのに払わない人達がいる。そこはしっかり、しつこい程、声をかけて払ってもらおう。生活保護も決定まではあれこれうるさいのに、決まったとんにゆるゆるになる。本当に生活が苦しい人のために制度をいかして、いらぬ人にはやめてほしい。	杉山 千恵
133	施策の柱 5-6	市職員も重要だが、市内の教育機関がすべて新要領を目指して改革されているのか甚だ疑問である。	山本 睦
134	施策の柱 5-6	人材育成に関しては、研修とその効果を指標化してほしい。	山本 睦
135	施策の柱 5-6	市職員に対する市民の信頼度の向上は喜ばしい成果と感じる。昨今の職員の方々の対応は好印象なのは、個人的にも感じる。	渡邊 昌志
136	施策の柱 5-6	研修は中長期的な基盤づくりにつながるため、財政に関らず推進すべき。	飯塚 尚司
137	施策の柱 5-6	マネジメント研修、接遇だけでなく、キャリア研修などもあるとよい。	飯塚 尚司
138	施策の柱 5-7	例えば、議員改選があり支持する政党の基盤が弱くなったとか、議会運営において市民要望と合致しない決議が行われたとか、ドラスティックに影響を及ぼす状況があったのか、ただただ、市民の関心が欠如したのか、その原因によって対応が異なるので、次年度も状況を注視していただきたい。	藤井 敬宏
139	施策の柱 5-7	議会活動に興味を持つというのはなかなかハードルが高い。情報発信に引き続き努めていただくとともに、各議員独自の報告会のあり方の改善や肩肘張らない議会と市民との意見交換の場を設けていただくといいかも。	渡邊 昌志
140	施策の柱 5-7	議員の年齢がバラけているので、いろいろな意見が出るのではないかと期待している。忖度なしの議論をして、それが市民のためになっているかどうか…イエスマンにならず、ノーと言える議会を。ただし、そのためには、代替意見が必要。	杉山 千恵
141	施策の柱 5-7	議会は平日に行われていると考えるため、平日に傍聴できる人は限られてしまうのではないか。	吉田 俊朗
142	施策の柱 5-7	「議会傍聴」が議会同会場とWeb (YouTube) で行える場合は、双方としてもよいのではないか。	吉田 俊朗

第2回裾野市総合計画等評価委員会 後期基本計画策定に向けた意見等一覧表

以下のご意見については、後期基本計画策定時の参考とさせていただきます。

※庁内組織である総合計画策定委員会や策定作業部会でいただいたご意見の内容を考慮・検討した上で、素案を作成し、総合計画策定審議会にて審議をお願いする予定です。

No	該当箇所	質疑または意見	発言委員
1	施策の柱 3-4	国民健康保険特定健康診査受診率の記載があるが、1カ所で全ての健診ができる病院は、裾野市には1箇所しかなく、予約を取るのが大変。そういった環境要因も受診率に影響していると思うので、受診の働きかけはあまり効果が上がらないと思うので、例えば病院の誘致など環境を変えていく取り組みについても、要因分析した上で触れる必要があると考える。	山本 睦
2	施策の柱 3-4	須山地区には病院（建物）はあるが、先生がいない状況で、地元では「あの先生がよいのでは」と話し合いをしているので、市も入り込んでつながる話ができると良い。	市川 加代子
3	施策の柱 5-2	地域が好きだと思う市民の割合について、策定時に62.6%で2023年は45%になっている。大きく落ちており、問題だと考える。「みんなが誇る豊かな田園未来都市すその実現」に向けてと書いてあるが、住んでいる方や裾野市で働いている方が、裾野が好きだと思わなければ誇れない。なぜ減少してしまったか、原因を追究し、対応した方が良いと思う。 フィルムコミッション事業や“すそのん”を活用した事業によるシティプロモーションの強化・充実により、裾野が好きだと思う市民が増えるかというのも、若い世代の意見も聞きながら、検討してほしい。	長谷川 好一
4	施策の柱 5-2	自分のまちに愛着を持つ思いは、子どものときからの暮らしの中から醸成されると考える、移住してきた方も働いている居心地が良いなど、地域との密着度によってその思いが変わったり、育まれたりすると思う。この数値が下がるのが短期的な傾向であれば良いが、継続すると裾野離れにつながってしまう。他の自治体を見ても、地域愛着に対する項目の変動はあまりないので、なぜ裾野市では下がっているのか気になるため、丁寧に確認する必要がある。	藤井 敬宏
5	施策の柱 5-2	田園未来都市を目指すとなると、移住者の確保が大事になると思う。オクシズは、静岡市と川根本町の市町をまたいで移住のための空家を手に入れたり、移住者に対する優遇制度を設けたりしている。それに比べると裾野市は中途半端である。東部は東京に出やすい立地である。県内の大学に通うには御殿場線の乗り換えが難関になっている。静岡県全体でも高校卒業後4割近くが東京か大阪、名古屋に流れている。県内に留めることが大事で、就職の問題を前面に出すと人が集まりやすいと考える。すると、住む家の問題、仕事の問題など統一した方向で動きおかけをかけないと、立地条件としてあまり良くない。裾野高校の学校評議員もやっているが、市内には高校が2校しかなく、1校は中高一貫校である。市内の中学生は沼津、三島、御殿場方面に出るようになってきている。最近御殿場の人気はなくなってきているが、先のことを見越してだと考える。大学進学を見越し、新幹線に近い方に進学する。そうするとやはり東京への進学率が高くなる。そういう環境がある中で何ができるかという点が必要と考える。田園都市の方に振れるなら触れるか、東京に出やすい地域として売っていくか。どちらの方策を取るかによって、お金をかけるところが変わる。	山本 睦
6	施策の柱 5-2	小山町に4年間勤務していた。小山高校があり、ダンスや吹奏楽を売り込んでいる。企業の祭りで使ってもらうことを徹底している。町内だけではなく、例えばヤクルトの企業祭で呼んでもらっている。また、役場が1年生全員をインターンシップで受け入れている。小山高校の優秀な生徒1～2人が必ず高卒で役場に就職する。企業が少ないので農協から役場に入る場合もある。小山町は、いずれ実家に帰らないといけなく考えている子どもが多く、戻って来る。それで役場がもっていると感じる。個々に拾っていく必要がある。病院の話もそうだが、先生があそこにいるということになれば、地元の区長が1人で行っても話にくい、市も細かく話をすると良いと思う。	市川 加代子

No	該当箇所	質疑または意見	発言委員
7	その他	<p>総合計画は大きな計画のため、数字で見えていくしかない。数字の分母も分からない中で数値にとらわれている。私は途中10年ほど地元を離れたが、60年裾野で生まれて育っている。大人になってから特に思うのが、豊かさが感じられないということ。本当は豊かだが、自分が見てきた他のまちや一時期住んだ三島市、関西など、住んでいて町が好きになることがいっぱいあった気がする。私は裾野市が好きだが、なんとなく豊かさを感じない。例えば、人口1人当たりの都市公園の整備面積の記載があるが、数値的に公園があるけれど、遊びに行きたくするような孫を連れて行きたくするような公園がない。数字は整っても実が伴っていないため、実態を見た、実のある計画を立てていただきたい。オクスズは私も好きで何度か行っているが、田舎の良さを前面に押し出しているから人が集まっている。裾野のポテンシャルは高いと思うので、これで人が集まるというものを見つけられると良い。具体的に落とし込んでいくような計画に発展していただきたい。</p>	渡邊 昌志
8	その他	<p>総合計画は、主婦や若いお母さんたちにはなかなか分からないと思う。</p> <p>市民文化センターの話だが、併設のレストランのオーナーが市民文化センターを利用して夏に親子に特化したイベントを2～3回行っている。民間でやっているものは、広報すそのに掲載・放送できないため、情報が市民に行きわたらない。市の関連部署が入らないと広報できない縛りがある。皆さんにお知らせするには、そういう縛りを外していくことも必要ではないかと思っている。介護に関することも介護保険課を通さないと広報できない。12年続いている男性だけの介護交流会をやっているが、この辺りでは裾野市しかやっていないと思う。会の司会者、社協、ケアマネ等全員男性だけでやっている。静岡から来て話を聞いたり、伊藤から来て愚痴をこぼしたり、情報を得ているが、市民全員が知っているわけではないと思う。SNSなどITが発達しているが、なかなか皆さんに伝える方法がない。元々介護家族の会が始めたことで、市から見れば「ほんの1つの団体がやっていること」で終わってしまっている。認知症を語る会も20年以上やっている。認知症の方が増えると言われながらそんなに増えていないのは、地域で、市の応援でサロンをいろんなところでやっていたり、地域の方がいろんなサロンを自分たちで立ち上げてやっていることが、高齢者の元気と知識を増やしていると感じる。</p> <p>市にもいろんな垣根があると思うが、「いいよいいよ、やってごらんよ」と言えるような広い気持ちで市民を見てほしい。</p>	杉山 千恵
9	その他	<p>土屋さん、杉山さんの意見で、誇るものがないということだったが、私は花火大会はすごいと思う。アピールの仕方、すごい良くなると思う。</p>	橋本 勝彦

裾野市総合計画等評価委員会評価報告書最終確認時 後期基本計画策定に向けた意見等一覧表

以下のご意見については、後期基本計画策定時の参考とさせていただきます。

※庁内組織である総合計画策定委員会や策定作業部会でいただいたご意見の内容を考慮・検討した上で、素案を作成し、総合計画策定審議会にて審議をお願いする予定です。

No	該当箇所	質疑または意見	発言委員
1	施策の柱 1-2	次代を担う子どもの教育の推進について…ある特定の地区では小・中学生が集まって自分たちで計画を立て時間を共有している。その子たちが大きくなっても戻って来られる場所を作っているという。市内に広めていい施策ではないかと思っている。	杉山 千恵